



始初受

+





清實監紀行卷第六

目錄

鮑女宗 列女傳

蔡人妻 同上

李德武妻 音天列女傳

魏崇探題妻 女節花

洛陽青士妻

云名氏婦 古今集

大和國婦 同上

下野國婦 大和物語

附 古田院光妻 撰集抄





六和國婦 同上

きい小婦 硃石集

云名氏婦 同上

常陸國婦 同上

比賣鑑紀行卷第六

紀行第六

此是より下(貞女列女の如く)更とあるとすかゝら

小室明備の夫婦の別乃るをそとて人ろあふふがす

魚り事おひさあよたひひのその類よまてびくひく

ほつ縁より

いあ(絶女宗)といひくろ(宗)の絶縁が妻なりそのまうとめに

いしてよくつるり絶縁はかく衛のおよむわげう

すでよとせうをりかればそいふも妻ととりてす

女宗いしてうじつも縁をげなりえもあく



春一けらるるつてしむらうあてゆきこのたなりよの**艶**  
 おくつしつうの妻もも物かくりておろけあさうらびうた  
 その大いありしきの女家とてはしてやうけりひる人の  
 ちくひもまふひにいかへりしむらりふおとてかたじ  
 こしくていそ女いひのらりとうとまおしても又姉らる  
 けだだ秘命とてまよよは入男姑と御おろては  
 はいもひるひらあつと貞とぶく人よまごふと順とらふ  
 おこのまやかりしむらりすうごりのよはゆきとていんやどま  
 おこれ女とてとくゆ天よ八十二人依候の九人をまの三人と  
 二人なりはあへにさふまび二人かあがごごごまそのう人女

人よすてはくたせのひそくおとよまうらまのむいつて  
 りらりのとれた物神しいとせののどぐれとあへにうら  
 なもじとていしはうりあまびらうらまのあよとていあ  
 ともそ我もいたあしとてあつるもまにうりて人よすてら  
 るまこのまをよしるびとあひ何のあしうゆらとてつわ  
 ちいしうらまひまひとてあまよかへりかごほくうらま  
 といこあまはくあうくせんておがくまは世の女たうとへが  
 物ありしてあま女家とてあうせしれたそのまとてうら  
 させあ入りぬ人てびんよむらりなはにらあくうらあ  
 せ家念のいんははあへんかあしとてあよなまおしおと



こあていりて我よははしくまふこころを秘かかひつが  
 うれいこころり女こころあふさふさあささうりこころの  
 せよものかお貞まことよんよまのうらさかひらうの  
 かめさすうあふさうこころひてさういさうさ  
 いあふまのふもさういさうあまのまのまのまのま  
 あふさのねとあさささささささささささささ  
 くらひさささささささささささささささささ  
 さあさささささささささささささささささ  
 むくたあふさささささささささささささ  
 うのふささささささささささささささささ



如鏡

三十一















一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、  
 二十一、  
 二十二、  
 二十三、  
 二十四、  
 二十五、  
 二十六、  
 二十七、  
 二十八、  
 二十九、  
 三十、  
 三十一、  
 三十二、  
 三十三、  
 三十四、  
 三十五、  
 三十六、  
 三十七、  
 三十八、  
 三十九、  
 四十、  
 四十一、  
 四十二、  
 四十三、  
 四十四、  
 四十五、  
 四十六、  
 四十七、  
 四十八、  
 四十九、  
 五十、  
 五十一、  
 五十二、  
 五十三、  
 五十四、  
 五十五、  
 五十六、  
 五十七、  
 五十八、  
 五十九、  
 六十、  
 六十一、  
 六十二、  
 六十三、  
 六十四、  
 六十五、  
 六十六、  
 六十七、  
 六十八、  
 六十九、  
 七十、  
 七十一、  
 七十二、  
 七十三、  
 七十四、  
 七十五、  
 七十六、  
 七十七、  
 七十八、  
 七十九、  
 八十、  
 八十一、  
 八十二、  
 八十三、  
 八十四、  
 八十五、  
 八十六、  
 八十七、  
 八十八、  
 八十九、  
 九十、  
 九十一、  
 九十二、  
 九十三、  
 九十四、  
 九十五、  
 九十六、  
 九十七、  
 九十八、  
 九十九、  
 一百、































比賣鑑紀行卷第七

目錄

宋伯姬 列女傳

息君夫人 同上

秋潔婦 同上

趙元楷妻 階書

唐貴梅 國範圍集

京師節女 列女傳

周迪妻 古今列女傳

泉忠衛妻

附 楚貞姜 同上

附 李仲義妻 國範圍集



山名禪室の妻

細川忠興の妻

源渡の妻

盛衰記

仁田忠常の妻

東鑑

比賣鑑紀行卷第七

紀行才七 比賣の身六の事此中の一なり

いふ一泉の恭云の夫人伯姫と申せし魯の宣云れいと  
 めなり。泉よとてりてすそせのくら恭云せまひをねど  
 めありありの流ひまのありあか中より夫もくちく  
 やけいさりのりやうしんてんやいさくもさるりよ  
 まごぬ人のれ流母なる書とありてさうくそ  
 がさうんぞとひあろひ流おふくたよの  
 てひあくならあひかり流母さあせいそつがのれ  
 かごいふらそのさめい  
 臣鑑卷七































ち我あが死とうあひよあひびとありあはるる若き  
 ひぐあひくしてとどろひあはるるあくうりこころす  
 ねよ三目すあかまじうねいあよひりせあはるるあ  
 いさぶかいらははよと月あくあうりあはるるあ  
 うらねのあはるるあやうあはるるあはるるあ  
 きくあ梅がんとあはるるあはるるあはるるあ  
 こころいどあひてあ梅がはるるあはるるあ  
 頭あはるるあはるるあはるるあはるるあ  
 とああはるるあはるるあはるるあはるるあ  
 あはるるあはるるあはるるあはるるあ













































